

今年度からは、学校推薦を希望する生徒全員に、2年生の夏休みにオープンキャンパスに参加するよう指導。ワークシートを提出させ、「進学事典」付属のワークシートで学校比較を行うとともに三者面談の資料とする。



生徒一人ひとりにきめ細かな対応をしている同校では、明るい雰囲気個室を用意するなど、面談ルームを充実させている。



進路指導主任
原田康司先生

「考え抜いて進路を決めた卒業生は、進路先で頑張っているという話を聞きます。ミスマッチではない、本人が後悔しない進路選択ができるよう指導したい」

同校では1学年約1500人のうち、2〜3割の生徒が大学に進学するが、入学時点で進学が就職を決めていない生徒がほとんど。個別指導をていねいに行いながら、生徒の希望を探っていく。「けれども、2年生でもなかなか決定できず、進学や就職のための準備が出遅れてしまうことがあります」と、進路指導主任の原田康司先生は言う。例年、2年生の終わりに「やはり進学したい」と生徒が言い始め、対応に追われることも少なくなかった。

生徒が進路実現に向けて主体的に動くためには、もっと早い時期での意思決定が必要。特に進学準備は少しでも早く始めさせたいと考えた同校では、2年生の夏休みのオープンキャンパスへの参加を積極的に促すことにした。多くが推薦、AOで進学する同校では、2年生の夏休みに進学の意志がしっかりと固まれば、余裕をもって準備ができると考えたからだ。「また、遅い時期に進路変更をする

後悔のない進路決定を促すため、来年度以降は「進学事典」の活用時期を6月に繰り上げ、夏前に学校研究を始めて、複数校のオープンキャンパスに参加するという流れを作る予定だ。
(取材文/永井ミカ)

同校では大学研究、学部学科研究において「進学事典」を活用してきた。「漠然と進学すべきかどうか悩む生徒が多いなかで、「進学事典」に目を通してほしいうちに、歴史を学びたいなどというように、ピンポイントで分野に注目する生徒が出てきます。まっすぐに学問に目を向ける生徒がクラスに2人でも3人でも出てくると、クラスの士気も高まります」と原田先生。昨年度までは2年生の2月に「進学事典 応援号」を配っていたが、今年度は早期に配付できる「進学事典 研究号」を活用することにした。

夏休みに各人がオープンキャンパスに行き、学校オリジナルのワークシートに取り組んで担任に提出。その後、「進学事典 研究号」を使って、気になる大学について調べたり資料請求を行う。また、「進学事典」付属のワークシートに興味をもった大学について比較検討し、こちらも担任に提出。12月の三者面談ではこれらのワークへの取り組み

を参考にしている。そして、それをふまえて冬休みに家庭内で話し合ってもらうという流れだ。同校ではこれまで、全学年で4月に家庭訪問を実施したり、こまめに面談を行うなどして、生徒の意志、保護者の意志の確認をていねいに行ってきた。今年度からさらに、「進学事典」での進路調べを面談に生かしたり、進路指導部と担任、そして保護者との連携を強化するなど、進路志望を決めるプロセスを手厚くすることを心がけた。それにより、生徒が自主的に進路指導室を訪れたり、今まで同校の卒業生が進学していない大学名が生徒の口から出てくるなど、意識の変化が感じられるという。

進路志望の決定のために
家庭で話し合う機会を設ける

夏のオープンキャンパス参加と
学校比較を記録に残す

『進学事典 研究号』を使い
興味関心に基づいた志望校選びを促す

千葉学芸高校(千葉私立)

千葉学芸高校は創立127年を迎えた私立高校。進学、公務員、情報、福祉、芸能の普通科5コースからなり、卒業後の進路は多様だ。プロを輩出しているゴルフ部をはじめ、自転車競技部、弓道部、吹奏楽部など全国的に活躍している部活動も多い。

と、保護者と意見が食い違うことがあります。話を聞いていると、2年生の年末年始に家族や親戚がそろって進路について話し合う機会が多いことに気づきました。そこで、それより前の時期に生徒が意志を固めることが重要と考えたのです」と原田先生は言う。

スクールデータ

生徒数414人
(男子262人・女子152人)
普通科12学級
進路状況(2013年度) /
大学進学21.8%
専各進学38.5%
就職36.5%・その他3.2%

千葉県東金市田間1999
電話/0475-52-1161
http://www.cgh.ed.jp/

ダウンロード可 ※ダウンロードサイト: リクルート進学総研「キャリアガイダンス」発行メディアのご紹介「クラス担任のためのキャリアガイダンスvol.25